

中川町地域おこし協力隊

／ 特別号 ／

Local Crew Magazine



N
A
K
A
G
A
W
A
T
O
W
N

中川町での暮らしと活動—

地域とともに歩む毎日。

2026 / vol.1

01

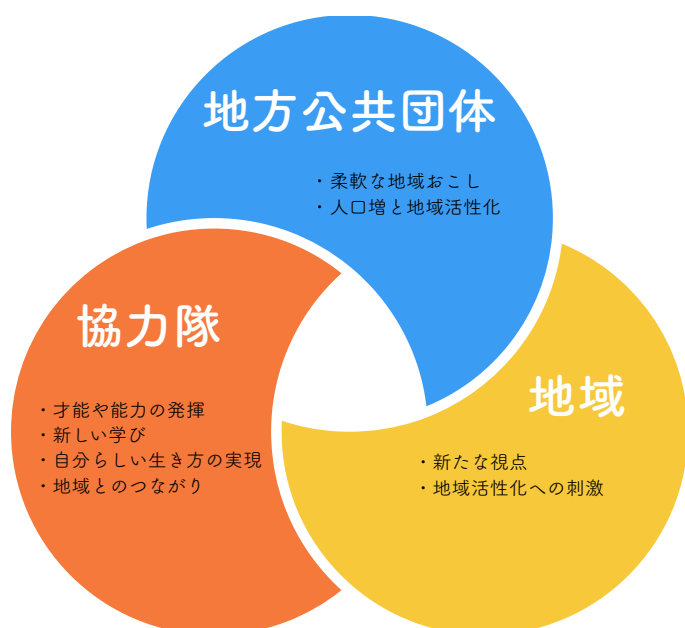
・ 部 川 塚 泉 嶋 村 島 川 宮 渡 橋 田 反 中 伊 中 出 中 オ 鈴 反
悠 淑 映 竣 め 晋 源 幸 隼 啓 信 梨 直 淳 新 知 吏 ゴ 謙 祐
人 子 子 也 ぐ 平 徒 史 矢 吾 彦 奈 弘 一 美 智 セン 友 介

地域おこし協力隊とは？



一定期間、地域に居住しながら、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PRといった地域おこしの支援活動や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」に携わり、その地域への定住・定着を目指す取り組みです。

地域おこし協力隊になるためには、都市部から過疎地域などの特定地域へ転居することなど、一定の条件が存在します。



関連制度：

おためし地域おこし協力隊

地域おこし協力隊インターン

地域おこし協力隊アドバイザー



総務省「地域おこし協力隊ナビ」ページ

中川町 3種類の委嘱型



任用型

役場の会計年度任用職員として雇用され、配属された課の業務の範囲で活動します。

町が委嘱し、町との雇用契約を結んでいただくため、各種手当や社会保障がある代わりに終業時間内の副業は制限されます。

委託型（課題解決型）

受入事業者による研修や活動支援を受けながら、二次創業や新規事業の展開等を図ることにより、地域課題を解決します。

町が委嘱し、町が委託する受入事業者と雇用契約を結んでいただきます。

委託型（起業型）

「中川町を舞台に新たな価値（暮らしや経済）を作り出す起業家」として選考。町が委嘱しますが、雇用契約は結ばずに活動していただきます。



中川町の地域おこし協力隊の現状

現在、中川町で活動している地域おこし協力隊は20名います。

令和5年（2023年）度 委嘱・・・8名

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ・反中 祐介 | ・鈴木 謙友 | ・オウ ゴセン | ・中村 吏智 |
| ・出水 知美 | ・中井 新 | ・伊東 淳一 | ・中村 直弘 |

令和6年（2024年）度 委嘱・・・7名

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ・反中 梨奈 | ・田辺 信彦 | ・橋爪 啓吾 | ・渡辺 隼矢 |
| ・宮川 幸史 | ・川島 源徒 | ・志村 晋平 | |

令和7年（2025年）度 委嘱・・・5名

- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| ・豊嶋 めぐみ | ・和泉 竣也 | ・平塚 映子 | ・吉川 淑子 |
| ・卜部 悠人 | | | |

協力隊特別号を創刊した理由

今までは広報ナカガワの誌面で地域おこし協力隊1人つき、写真1枚と50文字程度で活動を報告していました。しかし、それでは地域おこし協力隊一人一人の詳しい活動内容が町民のみなさんにお伝えしきれないという問題がありました。

それを解決するために、地域おこし協力隊の活動報告のみを掲載した広報ナカガワの特別号を作ることになりました。一人あたりの記事量を大幅に増やして、より町民のみなさんが興味を持っていただけるように細かい活動報告をお伝えできるようにと思っています。

なお、この地域おこし協力隊特別号は、3ヶ月に1度発行の季刊号として発行していく予定です。



・変更前



・変更後

町外の視点で考える、中川の可能性



起業型

反中 祐介

《活動内容》

トレイルランニング
を通じたアウトドア
事業。健康増進。観
光コンテンツ開発。

中川町の観光コンテンツ開発

11/29-30で中川町の観光コンテンツについて考える会を実施しました。町外からは飲食関係者、ものづくりに関わる人、広告関係者、観光事業者などいろんな物差しを持った人が北見、稚内、枝幸、札幌、東京から集まってくれました。

交流がてらQUESERIA FARO×Hungry manのコラボチーズバーガーを試食したり、お昼のスナックすみれでBAR EL RINCONCITOのランチBOXを食べたり、温泉裏の小屋のそばでテントサウナをしたりと色々行いましたが、一番充実感があったのは木工ノビタキ原さん講師のモルックワークショップです。

モルックはサウナやビールと合わせて楽しむ、フィンランドの生活に根ざしたスポーツとして親しまれています。「モルッカーリ」という木の板で定められた場所から「モルック」という木の棒を投げて「スキttl」という12本の立てている木の棒を倒して先に50点を取ったら勝ちというシンプルなルール。使用するアイテムが全て木でできていること、屋内外どこでも遊べること、老若男女で楽しめること。

これらの要素が中川町の遊びの選択肢としてとてもいいなと思っていました。また、中川町は木材がある、木作家がいるという恵まれた環境なので、ただモルックで遊ぶだけではなくてモルックをつくることからコンテンツにしてみんなでやった方が楽しいでしょ！と私が原さんに無茶振りをしたのがきっかけで今回の実施に至ったのですが、これが想像以上におもしろかった！木を切る、面取り、ヤスリがけ、蜜蝋仕上げなど一つ一つの工程で個性が出てくるのでずっとやってみたいとすら思うほどの没入感がありました。今回作成したモルックは反中が持っているのでぜひ興味のある方はお気軽にご連絡ください。

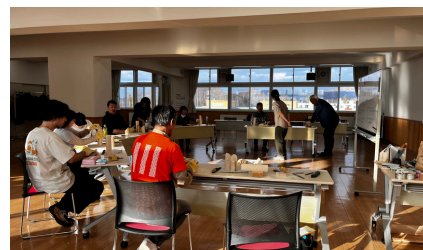
※私自身の活動についてはインスタグラムで公開しておりますのでぜひチェックしてみてください。



●反中 祐介



●bigfoot trail works



アウトドアから飲食へ、

広がる活動



設営の仕事、そして忘れられない暴風の日

あけましておめでとうございます。昨年、夏ごろの報告が最後となっておりますので、改めて2025年を振り返って。

5月末、町外からデイキャンプのお客様を対応したことを皮切りに、キャンプイベントへの出店や、名寄観光協会からの業務委託でイベントブース設営・指導、町内の子ども向けキャンプ、道の駅でのライブステージ(テント)の設営、こやのわマルシェのブース設営などなど、ありがたいことに多くの場所・場面で設営のお仕事をいただきました。

2025年、なかでも最も記憶に残ったのは星屑バーの設営です。多数のテントを張るため、前々日のうちにすべて設営していましたが、問題は開店前日の暴風でした。事前設営の時点で暴風の予報に備え補強を施していましたが、やはり自然の力は恐ろしいもので、結果的に8張のうち、3張の幕が割けてしまい、2張は完全に使用不可な状態に。終日暴風が吹き荒れ、早朝から夜まで(風が弱まるまで)ひたすらイベント会場の保守と修理、風に怯えていたあの時間が2025年のハイライトです。とはいえ、イベントが始まってしまえば多くのお客様、そして出店者も楽しんでいる様子で、それを見て心からホッとした記憶があります。



飲食提供への挑戦、そして任期後も

アウトドアを起点として、このような飲食のイベントに携わる過程で自身も飲食提供側に回りたいという思いが2024年末頃からふつふつと湧き、2025年春にまず食品衛生責任者の資格を取得しました。それを機に、中川町への移住促進フェア(札幌)や、夢創窯さんの周年イベント、稚内での角打ちイベント催行、なおバーでの飲食提供、交流プラザでのフードイベントと、徐々に飲食の仕事も増やしていますので、是非どこかの機会でお越しく下さい。2026年7月にて任期満了を迎えますが、引き続き中川町を拠点とし、アウトドア、飲食、ウェルネスと、自身の強みを活かした活動をして参ります。今後も様々な場面で関わる皆様、引き続き何卒よろしくお願いいたします。



台湾で中川町デビュー！
旅行旅博初出展レポート

任用型

オウゴセン

《活動内容》

インバウンド向けの
観光発信、観光協会
事務仕事

台湾で中川町を全力PR

皆さんこんにちは、2023年10月に着任したミシェルです。台湾人向けの観光PRをするため、11月7日から10日、協力隊の宮川さん、和泉さんと一緒に台湾の台北国際旅行博に出展し、中川町の魅力をPRしてきました。台湾に帰るには一回につき5時間くらいJRで空港に行って、そこからまた飛行機で4時間もかかるので移動だけで一日かかります。しかし一年ぶりの里帰りはやはりワクワクする！冬と言っても気温が20度くらいで、湿気がありますが過ごしやすい温度でした。

中川町って…そんなところにあるの？

台湾ではまだ知名度が低く、来場者の多くが「中川町ってどこ？」という反応でしたが、場所を説明すると興味を持ってくれる方も多く、稚内へ向かう途中に通ったことがあるという人もいました！ブースではFacebookフォローやアンケート回答でノベルティを配布し、4日間でフォロワーが608人増加、ファンクラブ会員も80名くらい増えるなど、初出展としては大きな成果となりました。用意したノベルティはほぼすべて配布され、じゅえるグッズが特に人気でした。



中川町の魅力を多くの人々に

北海道ブースのステージでプレゼンテーションを行い、水切り大会や丸太押し相撲など中川町ならではの祭りや体験を紹介しました。今回の旅行博を通じて、中川町を知ってもらうきっかけを作ることができ、台湾の方々との距離もぐっと縮まりました。今後、さらに魅力を磨き、多くの台湾の旅行者が中川町を訪れてくれることを期待しています。

たくさんの人
来てほしい！！



課題解決型

中村 吏智

《活動内容》

酪農ヘルパー業務
をしながら、チー
ズ工房設立に向け
て準備中。



酪農の冬、 厳しさと美しさ



時間との勝負、冬支度の日々

鮮やかだった紅葉が落ち葉となり、山々がすっかり雪化粧をまとう頃、酪農の現場にも本格的な冬がやってきました。季節の移ろいは、窓の外の風景だけでなく、牛舎の空気感や、そこで働く人々の表情もがらりと変えていきます。雪が降り積もる直前まで、町内の各牧場で行われていたのは、まさに時間との勝負である「冬支度」でした。夏の間、太陽を浴びて青々と育った放牧地から牛たちを牛舎へ戻す「終牧」。

牛がいなくなった広大な牧草地では、冷たい風の中、冬の間の深い雪の重みで柵が破損しないよう、撤去して回ります。それは今年の緑の季節への別れであると同時に、また来春、雪解けと共に牛たちが元気に大地を駆け回るための大切な準備作業です。その大変な背中を見ていると、自然を相手にすることの厳しさを肌で感じます。そして、冬の間の牛たちの食卓を支えるのは、酪農家さんが夏場に時間を削り育て、収穫しておいた牧草ロールです。これを牛舎へと運び込む一方で、牛たちの排泄物は堆肥として畑に散布されます。これは来年の牧草を育てるための貴重な養分を土に還す作業です。こうして植物と家畜の間で資源が巡る「循環」こそが、この営みの根幹なのだと、作業の様子を通して改めて実感させられました。

白銀の世界と、温もりある牛舎

準備が整った大地に、今年も雪が舞い降りました。白銀の世界に牧場のシルエットが浮かび上がる景色は、中川町の冬ならではの静謐な美しさです。寒さを感じながら牛舎に入ると、外とは対照的な熱気に包まれます。ズラリと並んだ牛たちが、白い息を吐きながら乾草を食む音が響く空間。その咀嚼音を聞いていると、酪農家さんたちが必死に進めた冬支度が、しっかりと彼女たちを支えていることを感じます。雪の季節はまだ入口ですが、この温かな循環の一端を担うヘルパーとして、日々の作業に向き合っていきたいと思います。



中川の牛乳で、

スペインのチーズを

起業型

出水 知美

《活動内容》

中川町産生乳を使った、チーズ・乳製品製造の工房を立ち上げるために相方の中村吏智と準備中。



工房予定地決定、そして本格始動へ

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年の振り返りで大きな進捗としては、①工房予定地が決まったこと、②チーズの試作がたくさんできたこと、③応援してくれる仲間ができたことです。

工房の立地条件として、牧場が近いこと(距離があると衛生や品質に大きく影響)、食品工場であるため騒音や匂いに関して周辺環境に極力ご迷惑が掛からないこと、建物の改修がしやすいこと、等々を考えるとなかなか決められず、1年半を要しました。場所は太田地区で、協力いただく牧場から車で約5分、周りは畑に囲まれた、とても静かで環境のよいところです。これから建築士さんと綿密な計画を立てて進めていきます。自分たちでできる部分はDIYで整えていく予定です。



試作を重ね、本物の味を目指して

今年の生乳処理量は11月時点で1,253Lでした。チーズにしてはおおよそ130kgくらいです。上手いかわないことが多かったなと反省しています。仕上がったチーズを食べてみるとやっぱり現地(スペイン)の味ではありません。逆算で考えて、製造や熟成工程のどこで何をどうすればよくなるか。多くの条件を試すので、とにかく試作を重ねてまいります。

販路を見つけるために試作品を提供しながら営業を始めました。もちろん、反応の良い所はありましたが、中には私たちの話を真剣に聞いて、助言をしてくださったり、チーズ一つ一つにとっても丁寧な感想をいただいたりしたこともありました。どちらかといえば口下手で、営業経験はなく、不安を抱えながらでしたが、私たちの大事にしたいことがチーズを通して伝えられたと思うと素直に嬉しかったです。今年の目標は、やはり工房設立です。ハードルは高いですが、地道に準備していきます。町民の皆さまのお力をお借りする場面もあるかと思いますが、どうぞ温かく見守っていただければ幸いです。



天然石と中川産木材、

唯一無二の出会い

起業型

中井 新

世界各地の天然石と
中川のアーティスト
制作の台座を、全国
に販売・紹介してい
ます。



天然石と地元木材を組み合わせた事業

2023年12月に家族4人で中川町に移住してまいりました。課題解決型で1年10カ月ほどポンピラアクアリズイングに勤務をしておりました。そこで町の人たちにたくさん触れ合い、大変親切にいただきました。今でもポンピラアクアリズイングのスタッフとは、仲良くさせていただいております。

2025年の4月から起業型となり、天然石と中川町で活動されているアーティストさん達に中川産の木材を使った台座などを作成していただき販売を始めました。販売方法はInstagramやTikTokでライブをして中川町をアピールしつつ販売をしています。

天然石は世界中から輸入しており、リーズナブルな価格から価値のあるレア商品を取り揃えております。買い付けや販売LIVE活動は自宅で行うため、全く外に出ることがないので、なかなか町民の皆さまとお会いするチャンスがなくなりました。今後はアクセサリーを制作して店舗販売を目指しているところです。天然石でブレスレット制作しているので自分に合った天然石を選んで欲しいというご希望ございましたらいつでもお声がけいただければ嬉しいです。生活の中に天然石をインテリアとして飾っていただけるような天然石を動物の形などに加工した商品もご用意しております。天然石は同じ形のものはなく、唯一無二の存在です。自然から生み出されたものでこれだけ美しいものがあるのかと惹かれてこの業界に入りました。

中川で見つけた、家族の豊かな暮らし

現在も月3・4日ほどポンピラで外国人スタッフの通訳として勤務させていただいております。子ども達にとっても中川移住は大成功だと思っております。身体も東京にいた頃よりも断然強くなりました。ここでは自然を通して季節を感じたり、動物や昆虫に身近に見ることができます。これが1番私にとってリラックスできるのです。深呼吸しやすいんですね。今後はもっと町の皆さまに認知していただけるよう努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。



起業型 伊東 淳一

《活動内容》

蝦夷鹿の有効活用から始まり、道北地域の未活用資源の活用を実現する為、町内に加工所を取得。特産品の開発を進行中

地域資源を活かし、 新たな価値を創る

地域の未活用資源の活用

移住して気付かされたのは、道北地域には流通に乗らない品々が季節折々に存在することでした。雪解けの白樺樹液、山菜、ベリー、ハーブ、農作物、しゃけ、鹿など、四季を通じて豊かな恵みがあります。北緯44~45度間の針広混交林の北限に位置し、広大な北大研究林が隣接する中川町は、自然は厳しくも山や森、川からの恩恵を享受している素晴らしい地域です。

この地域資源を活用した加工品を作りたいと、2024年10月に旧さんかいらく山菜加工工場を取得。2025年6月には"デリカテッシー合同会社"を設立し、本格稼働に向けて準備中です。同年11月からは東京・世田谷区の「ナカガワのナカガワ」で地域製品のイベント販売も開始しました。製造から販売まで一貫して行うのは大変ですが、協力隊任期終了までに地域に根差した事業として確立することを目指しています。

地域の観光資源の創出

中川町を中心とした道北地域の自然や営みは観光コンテンツとしてとても魅力的です。昨今さかんなアドベンチャートラベルという『アクティビティ』『自然』『異文化体験』の3要素を組み合わせた6名以下の小規模なツアーにとっても親和性があります。コンテンツを担う人材は、協力隊や様々なジャンルの造詣深い地域のみなさんを含め、多くいらっしゃると思っています。

現時点は中川町全体、もしくは道北地方全体としてツアーを統一する仕組みがなく、各自個別の活動に留まっています。豊かな観光資源を有効に活用するには、様々なコンテンツを整え一元化して、スムーズに繋ぐ仕組みを担う必要があると考え、2025年6月に「NNN合同会社」を設立しました。まだまだ準備段階ですが、関係各所にご相談させていただきながら進めていきます。

 放牧牛ソフトコッペ 400円	 じゃがコロコッペ 420円	 シャケフライコッペ 640円	 エゾシカほろほろ煮込コッペ 800円
---	---	--	--



起業型

中村 直弘

《活動内容》

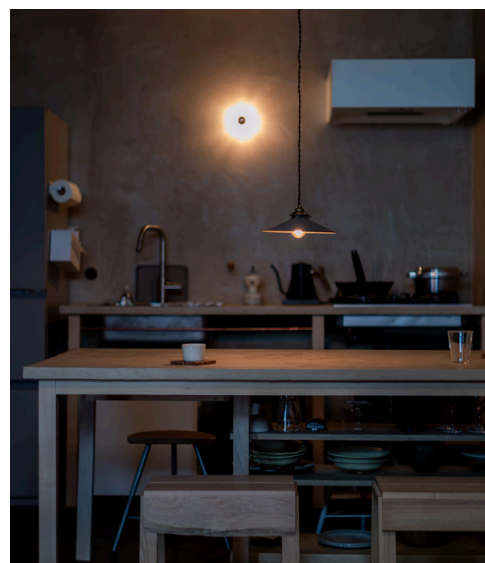
中川では、宿を開業
する予定です。



大工が紡ぐ、 中川町の新しい物語

大工として中川町に根づく

こんにちは。2024年2月に着任した大工の中村です。日頃より、温かいお声がけや励ましをいただき、心より感謝申し上げます。着任してから本業である大工の経験を活かし、町内で大小合わせて8件ほどの修繕工事に携わりました。大工仕事を通じて地域の暮らしの一部を支えるお手伝いできたことは、協力隊、そして職人として、何より嬉しく感じております。しかし、私の最大のミッションは、「宿泊業の開業」です。第一歩として、10月には自宅兼一棟貸しの宿「木雨(きう)」の営業許可を取得。現在は実証試験を行いながら、2026年春の正式オープンに向けて準備中です。また、セイコーマート近くの旧教員住宅をツイン3部屋を「マイクロホテル」として蘇らせるプロジェクトも並行して進行しています。



大工仕事を観光に、世界が繋がる

また、私は中川で新しいチャレンジをしました。それは、「宿をつくる大工仕事」そのものを観光コンテンツとして活用することです。「日本の大工技術を学びたい」というトレーニーを広く募集したところ、シンガポール、アメリカ、オーストラリアから4名、国内からも九州・湯布院、神戸、洞爺湖、富良野から参加がありました。彼らとは共同生活を送り、町の祭りや英語学習会への参加などを通じて、地域の方々とも深い交流ができました。道内では遠い場所と捉えられがちな「中川町」ですが、海や国境を越えてくる本州や海外の方から見れば、小樽やニセコと変わりありません。多様な文化が混ざり合い、新しい可能性を感じることができました。このトレーニー制度は、協力隊制度があったからこそできたチャレンジであり、来年に向け準備を進めています。

冬の間は現場での仕事は休止となりますが、ホームページ制作など事務仕事に注力します。任期も残り1年余りとなりましたが、春の雪解けと共に活動を加速させ全力を尽くします。今後とも変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

ただいま中川町、

新しいスタート

任用型
反中 梨奈

《活動内容》
役場地域振興課に配
属され観光振興やふ
るさと納税を担当

こんにちは！

1年間の育児休暇を終えて、反中梨奈として戻ってまいりました。せっかくの機会なので、改めて自己紹介をさせていただきます。タンナカリナ(旧姓:住岡)1990年2月15日生まれ 北海道登別市出身・札幌育ちです。酪農学園大学を卒業後、上京して約7年間歌手として活動したのち、保育士を志して資格を取得。札幌市内の認定こども園にて2年間、3～5歳児の保育に携わってきました。

2024年4月に中川町へ移住し、現在は1歳になる娘と一緒に毎日を過ごしながら、私は役場へ、娘は幼児センターへ通っています。地域おこし協力隊としての活動は、これまでと同じく中川町役場 地域振興課にて、ふるさと納税や観光のお仕事を担当しながら、町の良さをSNSなどで発信していく所存です。あわせて、オニグルミや薄荷・ヨモギなど中川町の豊かな資源を活用したインクづくりや蒸留にも挑戦するべく、準備を進めているところです。町の魅力をより身近に、気軽に感じてもらえるような「体験」や「アイテム」を増やして、生活にプラスになる楽しみを提供していけたらと考えています。



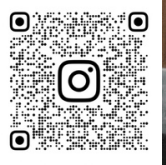
ふるさと納税のこと

中川町の魅力を感じてもらえる返礼品も増え、新しいパンフレット『北海道中川町ふるさと納税BOOK Vol.03』ができました。町をまるごと応援してもらえるよう、ここからさらに多くの方へ情報を紡いでいきたい想いです。「ふるさと納税の仕組みがわからない!」「寄付金はどんな事業に使われるの?」など、私自身もまだまだ勉強中ですが、ぜひ一緒にお話しながらお伝えできたらうれしいです。興味のある方は、お気軽にお声掛けくださいませ。イベントやお散歩の際など、お会いすることがありましたら娘ともどもどうぞよろしくお願いします。

起業型 田辺 信彦

《活動内容》 道北
の自然を写真で発信、
自転車アクティビティー開発、
中川町で道産食材の飲食
業起業。

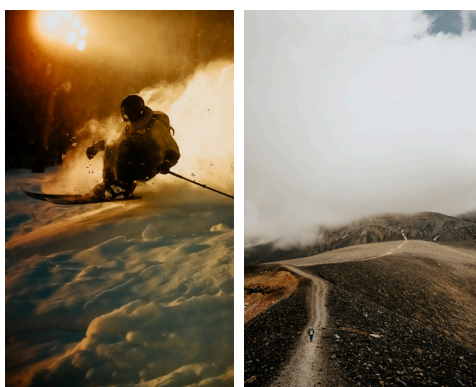
中川町から世界へ、 レンズが捉える冒険



@NOBUHIKOTANABE

中川町を拠点に、世界中を飛び回る

スポーツをメインとした写真家として中川町に2024年4月に移住し、ここ中川町を拠点にしてから1年半、国内はもちろん世界中に足を運び多くの撮影をさせていただいています。これまで東京を拠点としていましたが中川町をベースにすることが僕にとって今まで以上に活動的になる原動力となっています。それは中川町に移住した1番の理由ですがこの道北の地に様々な才能を持った刺激的な移住者が多く、何かが始まっていく場所、ワクワクする場所だということ。表現を仕事にする身としては常に刺激が得られるという環境は何よりも大事なんです。また僕自身、外遊びが大好きなこともあり中川町という場所は自転車に乗るのも、釣りしに行くのも、スキーするのも全て身近にできるということも重要なポイントです。素晴らしい自然にあふれる土地、面白い人たちからの刺激があり、遊びと仕事のバランスが僕の思うベストで成り立つのがこの中川町。それもあって東京に拠点があった時よりもフットワーク軽く全世界に飛び出して撮影などの仕事に没頭しています。またこうして世界中に足を運ぶことのできることを最大限に活かし、なぜ僕が北海道、道北の中川町に拠点を置いているのかということに関わる全ての人たちに話し、微微たるものですが中川町という場所を知ってもらう活動もしています。

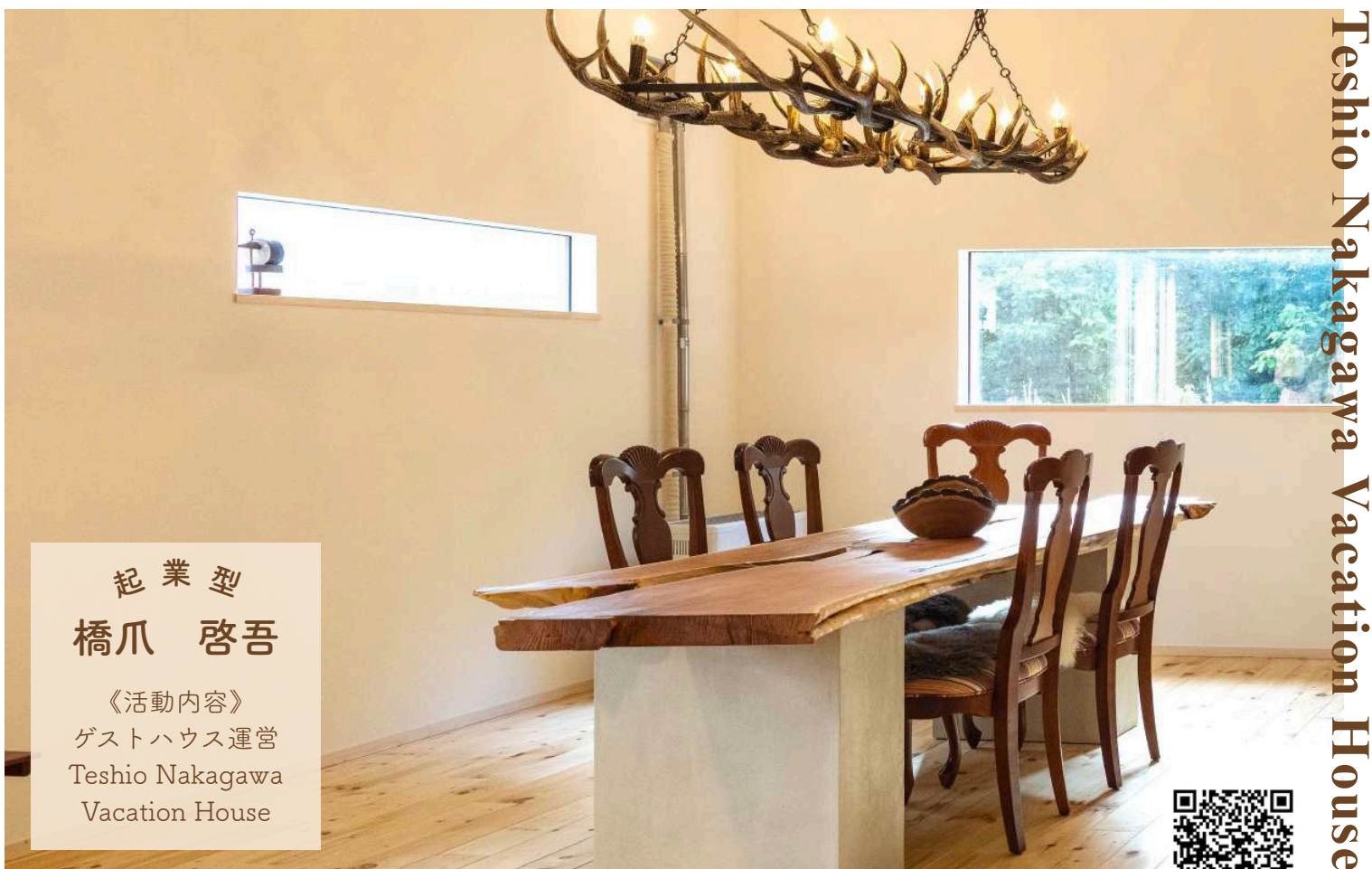


2026年春、中川町で写真展開催へ

2025年の8月には北海道へ移住して1年ということもあり札幌にて1ヶ月、北海道の自然と遊びをテーマとした写真展も開催させていただきました。撮影の活動では中川町や道北の自然の魅力を伝えるべく作品の製作も進めており2026年の春頃にこれまでの僕の代表作や実績、全世界に足を運び撮影した作品、そして中川町で製作している作品を展示する写真展を中川町で開催するべく準備しています。これまでに撮影した作品などはInstagramにも掲載してありますのでぜひご覧いただければと思います。

起業型 橋爪 啓吾

《活動内容》
ゲストハウス運営
Teshio Nakagawa
Vacation House

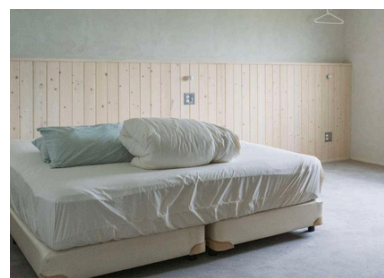


TVH instagram→

丁寧にリノベーションされた、温もりの空間

中川町の雄大な自然に寄り添うように佇む「Teshio Nakagawa Vacation House」が、このたび正式にオープンいたしました。天塩川の流れや四季の移ろいを身近に感じながら、まるで町に暮らすように滞在できる1日1組限定の宿です。かつてのとっくりいもハウスを丁寧にリノベーションし、雪国らしい温もりと、どこか懐かしさのある落ち着いた空気をそのまま残しています。室内は、株式会社KICCAとKyoHashizumeが手がけたインテリアで統一され、鹿角を用いた照明やヴィンテージ家具、町内の自然素材を活かした装飾など、シンプルながらも深い味わいを感じられる空間が広がります。静かな土地だからこそ感じられる「余白」の時間を大切に、デジタルデトックスや心身のリセットをしたい方にも心地よい場所です。

設備面では、大型ストーブを備えたリビング、使い勝手の良いキッチン、Wi-Fi、ゆったりと寛げる寝室など、長期滞在にも対応できる機能性を確保しました。冬は一面の銀世界を眺めながらの滞在、春から秋にかけては天塩川でのアクティビティや森林散策を楽しむ拠点として、多様な旅のスタイルを受け入れています。

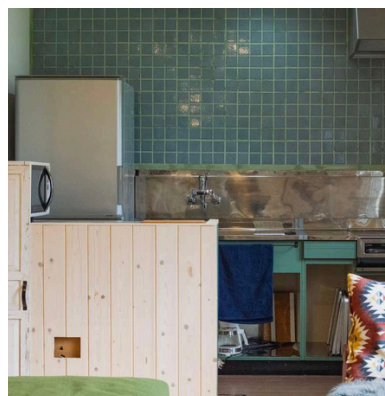


多様な旅のスタイルを受け入れる宿

また、町外からの旅行者だけでなく、町民の皆さまにもご利用いただけるよう、家族の記念日、小さな集まり、ゆっくり休みたい時の「町内ステイ」としての使い方も歓迎しています。中川町の穏やかな魅力を再発見できる、もう一つの“居場所”として育てていきたいと考えています。

「レアな場所で、心が整う時間を。」そんな思いを込めたTeshio Nakagawa Vacation Houseで、特別なひとときをお過ごしください。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

ご予約の際はAirbnb・booking.com・自社HPなど色々なサイトで掲載していますので、そちらをご利用ください。



誰もが楽しめる、

生涯スポーツの町へ

任用型

渡辺 隼矢

《活動内容》

多世代の生涯学習、
スポーツ環境充実、
子供の町外交流支援
など社会教育全般。

生涯スポーツと協力隊活動

中川町教育委員会で地域おこし協力隊をしています、渡辺です。着任から約1年半が経とうとしています。あらためて私の活動を皆な様にお伝えしたいと思います。私は、地域おこし協力隊の任用型として中川町教育委員会の生涯スポーツ係に所属しています。主には、誰もが生涯を通じて楽しく続けられる、生涯スポーツを中心に身体を動かすことが皆様の生きがいとなるような活動をしています。

一方で、ながかわスポーツくらぶという総合地域スポーツクラブの一員として運営に携わり、小学校体育支援や中学校部活動支援などを行っています。小学校体育支援では、働き方改革の側面から先生方の負担を軽減することや外部講師をお呼びして授業内容の充実をさせると、普段とは違う大人と出会う機会をつくることを目的としています。サッカーの授業では、過去に海外でプロ選手をしていた方、バルシューレの授業では国内唯一のA級ライセンスを保持している方、地域おこし協力隊として高いスキルをお持ちの方など多くの方々に講師として来ていただきました。



NAKAGAWA LABO、世代を超えた学びの場

また、子どもから大人まで幅広い世代に多様な体験や興味関心があることを自ら学べる場をつくる為、生涯学習活動「NAKAGAWA LABO」を創設しました。

「NAKAGAWA LABO」では、現在「放課後LABO」（放課後こども教室）、「TUNAGU」（地域スポーツコミュニティ）、「下の句カルタ」の活動を行っています。特に「下の句カルタ」は児童クラブで活動が始まり、児童クラブの児童が卒業をするタイミングで中学部活動の地域展開の流れから地域文化クラブ創設までの良い受け皿になったと感じています。ニーズに合ったスポーツや文化活動のあり方を見つけ、健康促進や町民同士の交流につなげたいと思っています。

NAKAGAWA LABO

★場所 生涯学習センター 毎週 木曜日
ちやいむ『格技場』 18:00-19:15
日程場所が変更になる場合もございます。
お問い合わせ下さい。

Hokkaido (全町民対象)
Shimono-ku Karuta



PROGRAM 下の句かるた
主催: 中川町中央公民館
問合せ先: 中川町教育委員会 (渡辺) TEL 01656-72877

Vol.2



自然と食で繋ぐ、 中川の暮らし

起業型

宮川 幸史

《活動内容》

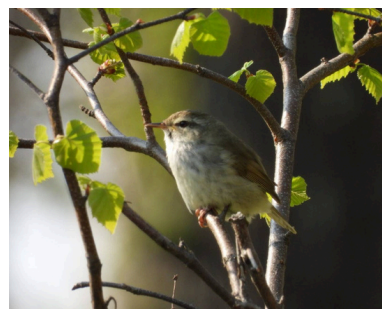
地域の環境・観光コ
ンテンツの
開発と飲食店舗の起
業を目指す。

一年かけて知った、中川の自然

中川町での暮らしが始まり、気がつけば一年が経ちました。最初の一年は、とにかくこの町の自然と人を知ることにより力を注ぎました。天塩川沿いの野鳥、春の芽吹き、雪の下で静かに春を待つ草木。四季の移ろいの中で出会う動植物の姿を、毎日のように歩きながら記録しています。その過程で、中川の自然には"静かな豊かさ"があると強く感じています。

この自然をより深く理解し安全に案内するため、北海道大学 中川研究林の「公認ガイド認定プログラム」を受講しました。森の成り立ちや地域の歴史、フィールドでの危険対策などを学び、これから町内外のお客様に、より充実した自然体験をお届けできるよう準備を進めています。

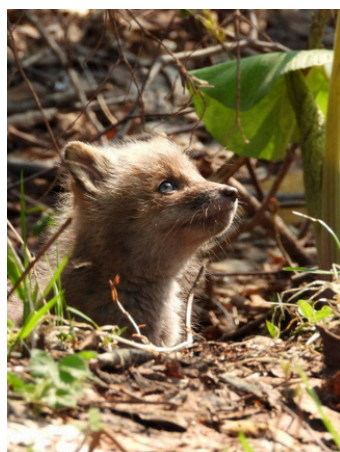
また、町内のさまざまなイベントに参加し、住民の皆さんと一緒に中川を盛り上げる機会を大切にしてきました。子どもたちと森で遊んだ日、季節の恵みを囲んで笑い合った時間、その一つひとつが、ここに暮らす喜びを教えてくれています。



地元の味を活かした、集いの場づくり

もう一つの大切なミッションが「町内で飲食店を立ち上げること」です。地元の食材や季節の味を活かし、町の方々が気軽に集い、語り合える場所をつくりたい。観光で訪れる人にも、日々の暮らしの中にあるおいしさと温かさを感じてもらえるような、中川ならではの食体験を提供できるお店を目指しています。

自然と食、暮らしと人をつなぐ活動を通して、中川町の魅力を未来へつなげていくことが、私の役割だと思っています。まだまだ学ぶことは多いですが、これからも地域の皆さんと歩みながら、中川町をもっと好きになってもらえる取り組みを進めていきます。どうぞ気軽に声をかけていただければ嬉しいです。これからもよろしくお願いします。



起業型

川島 源徒

《活動内容》

ハンバーガーショップ
開業を目指し、現在は
交流プラザで販売中。
今後はイベント等にも
積極参加予定。



中川牛100%！ バーガーで町を盛り上げる

中川町との出会い、そして移住

協力隊の川島源徒です。去年(2024年)の11月から中川町に移住して、今年で2年目になります。起業型の協力隊として任用され、[HUNGRY MAN]という名前で主にハンバーガーを販売しています。中川町を知ったきっかけは反中祐介さんの紹介でした。以前、僕はトレイルランニングをやっていて、反中さんとは高校生からの付き合いでした。反中さんが中川町の協力隊として移住したと聞き、初めて中川町を知りました。初めて中川町に遊びに来た時に中川町の自然の豊かさ、個性豊かな町民に魅力を感じて移住を決意しました。

中川町に来る前は、札幌の飲食店で働いており、スープカレー屋やハンバーガー屋さんで長く働いていました。昔から自分のお店を持つことが夢でした。協力隊の期間で自分のお店をオープンすることを目標に活動しています。

中川牛100%、地元食材で作るバーガー

2025年は、中川町のみなさんに自分の活動を知ってもらうこと、自分自身が中川町を知ること为目标に活動していました。まず中川町の皆さんに僕のハンバーガーを知ってもらうために、町内のお祭り、イベントに出店したり、天塩中川駅の交流プラザをお借りして営業していました。

マクドナルドやモスバーガーなどのハンバーガーとは違い、個人店でやっているようなハンバーガー屋さんはグルメバーガーというジャンルになります。道内でも札幌、函館以外の都市ではグルメバーガーをやっているお店はほとんどありません。僕のハンバーガーは中川牛を使用していて、つなぎなどは使わない牛肉100%のハンバーガーです。牛肉以外でもできるだけ地元の食材を使った料理を作っています。ハンバーガーを通して中川町を盛り上げられたらいいなと思っています。

町を知り、町に知られた一年

自分自身が中川町を知るため、町内の飲食店に行きお話を聞いたり、山菜やきのこを取りに行ったり、町民の方と交流するようになってきました。小さい頃から剣道をやっていたので、剣道少年団の練習にも積極的に参加しました。自然の良さ、町民の温かさを改めて実感する一年でした。生まれてからずっと札幌に住んでいたため、田舎暮らしに慣れていました。これからは自分の言葉で中川町の良さを発信していきます。来年は、本格的にハンバーガー屋さんのオープンに向けて活動していきます。今後とも応援よろしくお願いいたします。

アドレス住宅から始まる、 新しい町づくり

起業型 志村 晋平

《活動内容》

中川町の空き家を
ADDress住宅に転換
して、関係人口を増
やすプロジェクトで
活動しています。



アドレス住宅、初年度の成果

皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊の志村です。私の主な地域おこし協力隊のミッションは、中川町とアドレスのプロジェクト※を橋渡しし、この取り組みがしっかりと実を結ぶように活動することです。その一環として、昨年度「アドレス中川A邸」をオープンし、今年はその運営初年度を迎えています。この夏から現在にかけて、約90日ほどの滞在があり、30名ほどの方々に来ていただきました。さらに見学者は130名を超え、北海道新聞や北海道建設新聞、その他メディア取材にも3回ほど取り上げていただき、初年度としてはなかなか意義あるスタートが切れたと思っています。

またアドレスB,C邸もオープンして、今年度末にはアドレスD邸もオープンする予定です。冬場はどうしても活動が落ち込みがちですが、これからは新たなイベントなどを企画し、少しずつ冬の時期も活動を盛り上げながら、この拠点を中心に中川町の関係人口を増やしていく所存です。

※(株)アドレスと中川町が締結した包括連携協定に基づいて行われる空き家活用プロジェクトです。

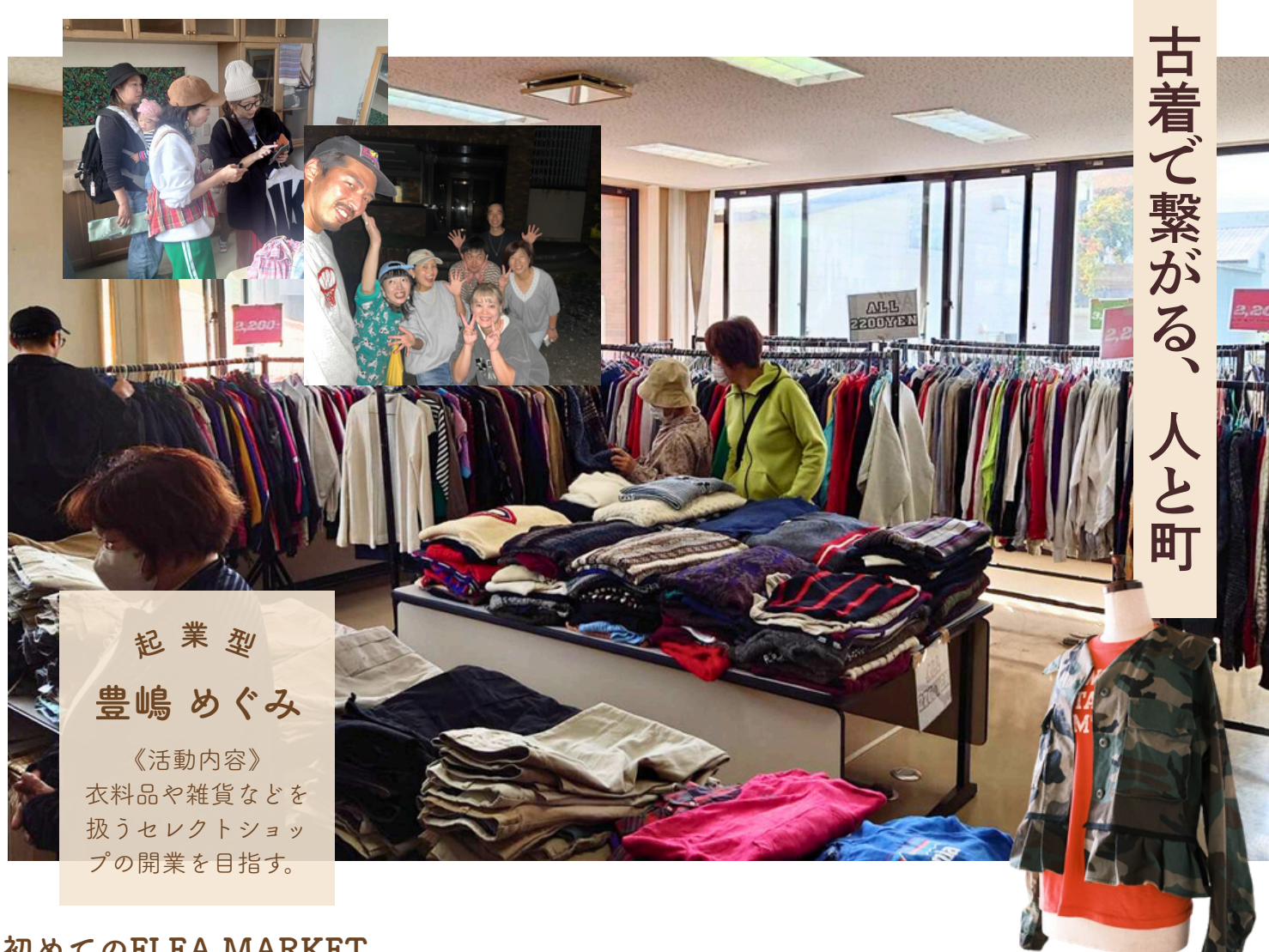


アドレスHP→

多様なスキルを活かして

また個人の活動としては、大工のトレーニーとして、町内の大工作業に参加。ナポートパーク内の小屋を活用したヨガレッスンを始めたり、もみほぐしのサービスを開始しました。また、ウェブ作業を通じて中川町で自分が貢献できる分野を関係各所にご提案させていただきました。その他、こやのわマルシェ・北海学園大学学生の受け入れ・酪農ヘルパーの研修・道外への出張や視察など様々な活動を行いました。このように、ウェブ、ヨガ、そして大工トレーニーとしての活動など、幅広く取り組んだ半年となっています。これからも町の皆さんとともに歩みながら、さまざまな活動を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。





起業型 豊嶋めぐみ

《活動内容》
衣料品や雑貨などを
扱うセレクトショッ
プの開業を目指す。

初めてのFLEA MARKET

地域おこし協力隊に任用されてからあっという間に8ヶ月が経ちました。(12月1日時点)これまでの主な活動は取り扱い商品として考えている古着の仕入れ、オリジナルやリメイク商品の試作、古着販売イベントの企画開催、町外のイベントに出店、町内イベントの手伝い等、セレクトショップ開業に向け着実に一歩ずつ進めています。

なかでも自身にとって最も大きな経験のひとつになった出来事は、9月27日～28日に旧大永建設跡地で開催した古着販売イベント『FLEA MARKET』です。企画から開催に至るまで初めてのことばかりで様々な課題がありました。中川町を含め道北エリアで古着という商品がどれぐらいの需要があるのか? 集客はできるのか? 楽しんでもらえるか?

まずはやってみないと分からない!の精神で進めていきましたが、沢山の方々に御協力いただき無事開催する事ができました。開催期間中で印象的だったのは子どもから大人まで年齢性別問わず来場者の皆様が存分に買い物を楽しんでくれたこと。

古着は一期一会、モノを通じた交流の場づくり

洋服は生活する上で絶対に必要な物です。今現在、世の中には様々なジャンルの衣料が存在していて、ただ着用するだけの物ではなく多くの人が自分の好きな洋服を選んで身に着けていると思います。古着とは一期一会。個性的なデザインの洋服と出会えるのが古着の魅力。量産されている物ではなかなか出せない雰囲気があります。私個人としては古着でも新品でも着たい物を着る!物心ついたころから40年以上毎日洋服について考えているかもしれません。(自分が怖いですが笑)

今回のイベントでは古着という商品を通して町内外の方々、出店者同士と多くのコミュニケーションが生まれました。ただのセレクトショップというだけでなく、衣料や雑貨など『モノ』を通して様々な方々の交流の場になるような店づくりをしていきたいと改めて思いました。今後も町内の施設をお借りして定期的にショップをオープンし実店舗の開業を目指して活動していきます。

12月6日～7日交流プラザにて2回目の『FLEA MARKET』を開催しました。またイベントの様子は次回の特別号にてお伝えできればと思っております。

課題解決型 和泉 竣也

《活動内容》

中川町地域開発振興公社で特産品・観光コンテンツの企画開発を通じ、関係人口の拡大に取り組んでいます。



町の可能性を探る、 内外への挑戦



飛騨市での学び、姉妹森のご縁

こんにちは！2025年5月より地域おこし協力隊として、(株)中川町地域開発振興公社で活動している、和泉です。一部ながら、これまでの活動についてご報告いたします。10月11日～12日に岐阜県飛騨市で開催された「全国薬草フェスティバル in ひだ2025」に参加し、中川町を代表して特産品販売と町についての情報発信を行いました。今回は、町内の有限会社匠舎様、夢創窯様、Rawwood様からもご協力をいただき、多彩な商品を紹介することができました。飛騨市とは2018年に「姉妹森協定」を締結しており、そのご



縁での参加でしたが、市民の皆さんや行政関係者の皆さんが一体となってイベントを盛り上げる様子を肌で感じ、とても学びの多い機会となりました。また、観光協会や市役所職員の方々からイベント運営に関する取り組みや課題についてもお話を伺うことができ、今後の中川町での活動にも活かしていきたいと考えています。

台湾で見た、ローカル観光の可能性

さらに、11月7日～10日には、台湾・台北市で行われた「2025台北国際旅行博」に参加させていただきました。「中川町の観光コンテンツ創出」を私のミッションの一つとしていることから、「中川町の認知度向上」と「台湾の皆さんに響く体験型観光コンテンツの可能性を探ること」を目的に現地に出展を行いました。お話しした多くの方が北海道の主要都市にはすでに訪問経験があり、次はよりローカルな町での体験を求めていることが分かり、中川町の自然や暮らしを活かした観光の可能性を再認識する機会となりました。町内外のイベントやプロジェクトにも関わる中で、町民の皆さんとの交流の機会が十分でなかったこと、活動成果の検証が不十分であったことが個人的な反省点です。今後は地域とのつながりをより深めながら、協力隊としての役割をしっかりと果たしていけるよう努めてまいります。皆さま、引き続きどうぞよろしくお願いいたします！



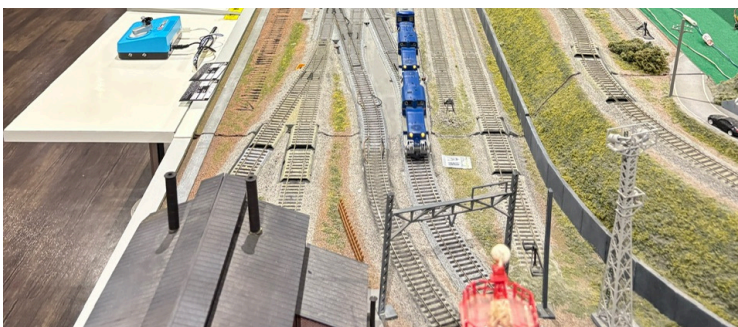
起業型

平塚 映子

《活動内容》

旧三箇邸で昭和レトロなアンティークショップ兼喫茶店を開業。鉄道模型ジオラマ館併設予定。町イベント時の救急看護も担当。

新しい町の居場所づくり
昭和の風を吹き込む、



契約完了、春からの始動に向けて

新年明けましておめでとうございます。昨年中は6月より地域おこし協力隊になり、中川町民の皆様には大変お世話になりました。道北の厳しい自然環境をただ受け入れ、強く明るく優しく逞しく生活をされている皆様の姿にただただ励まされました。いつもありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

中川町民の皆様が集える喫茶店と、アンティークリサイクルショップと、鉄道模型館の3つの事業を開店するべく、旧三箇産業の土地建物の契約が昨年末にようやく完了いたしました。春になったら、住まいの修繕と開店に向けて動き始める次第です。どこをどのように直しどう使うか、冬の間にじっくり打ち合わせや構想を練ります。

とりわけ春が待ち遠しいです。昭和レトロアンティークショップ&喫茶店開店に向けては、古物商と食品衛生責任者の資格を取得いたしました。家具や食器類を空き家から引き取ったり、仕入れたり、集めたり、開店準備を楽しみながら、ご協力いただきながら、少しずつ着々と始めています。1月末に交流プラザでイベントを計画中です。近日中にお知らせいたします!(^^)



現在、この月1回のイベントは3月までのトライアルと位置付けています。この実験期間を通じて得られる顧客の反応や採算性を分析し、4月以降のサテライト店舗と日大での弁当販売を採算の取れる事業へと進化させるための体制を早急に刷新し、計画を策定していくことが、私に求められている最も重要な役割です。皆様と共に、中川町の新たな可能性を追求してまいります。





獲って、捌いて、届ける

—悠鹿の挑戦

起業型

ト部 悠人

《食と体験》というテーマのもと、狩猟や解体、精肉販売、料理提供等によるジビエの普及活動はもちろん、狩猟体験ツアーも計画中です

はじめに

今年の8月、協力隊（企業型）として中川町へ移住してから早くも4か月が経ちました。移住当初は生活基盤の構築に加え、引っ越し作業や委託手続きに追われる日々でした。しかし、それらも落ち着き、屋号「悠鹿（HARUKA）」のもと『食と体験』をテーマにした事業を開始することができました。

ペットフード事業や食肉（ジビエ）事業、技術的な講習や食育による観光コンテンツの提供を主な事業内容とし、ふるさと納税返礼品へのエントリーも計画中です。

これまでの活動

8月は、中川町を拠点とした事業の立案や、他協力隊員のお手伝いから活動を始めました。9月はペットフード用の鮭の確保や、今後鹿肉などを解体・精肉するための工場を探し、準備を進めました。10月からは狩猟期間に入り、自らペットフード用に鹿を捕獲し、解体・精肉・納品と、忙しい日々を送っていました。しかし11月に入り保健所の許可を得た食肉処理施設をお借りし、食用として精肉した鹿肉を販売したり、イベントで調理して提供したりと、自分の鹿肉を食べてもらえる機会を多くいただきました。これにより、鹿肉を通して多くの方々と触れ合い、交流することができました。

今後の活動

今後は、これまで通りペットフード事業を基盤としつつ、食肉事業やイベントでの料理提供を継続・拡大していくことはもちろん、体験型の観光コンテンツを提供できるよう準備を進めていきたいと考えています。

狩猟においては、中川町内での経験値を高めるため、一定以上の出猟回数を維持・継続していく必要があります。また、狩猟以外の分野でも、お客様に提供できる体験をまずは自ら習得し、完成度の高い商品として形にしていきたいと思ひます。





令和8（2026）年1月発行

発行 中川町地域おこし協力隊
中川町地域振興課